

## 》商工会議所活用レシピ

一度断られた融資が商工会議所同行で実行に  
確かな資金を得て、足こぎ車いす普及に全力

弊社が取り扱うのは「足こぎ

車いす」。脳卒中で半身が麻痺した方や、腰痛、膝関節痛などで歩行困難な方でも、どちらかの足が少しでも動かせれば、自分の両足でこげる可能性があります。また、わずかな力で早足程度のスピードで移動でき、麻痺した足のリハビリ効果もあります。東北大学の半田康延先生の研究成果を世に出そうと、平成20年11月、共同で会社を立ち上げました。

この車いすの利用後、寝たきりだった80歳の女性が1年足らずで、また、脊髄損傷で不完全麻痺になった47歳の女性が1カ月後には、共につえ歩行ができるようになったなど数多くの改善症例があります。「素晴らしい器具を少しでも多くの方に役立ててほしい」。思いは純粹ですが、

会社となると難しい。

資本金の380万円は先行する開発費で底をつき、千葉県のメーカーへの交通費もままならない状況に。創業早々文字どおり年が越せない。金策に銀行を回るも、商品は出来ていない、効果は理解しにくい、開発型のベンチャー企業にどこも門前払い。八方ふさがりで、「落ち着いたら行ってみようかな」ぐらいに思っていた仙台商工会議所の扉を開けました。

ここで事態は急転。親身に聞いていただき、その後も事業計画など電話で何度かアドバイスをちょうだいし、再訪したときはその足で日本政策金融公庫に。同行した野窪さんの応援も奏功し、一度断られていたにもかかわらず、融資が実行され、その後、同公庫が創設したばかりの「挑戦支援

融資制度」の全国初の企業として認定していただきました。

現在の販売台数は、約1000台。弊社は開発・普及に徹し、製造はパリンピックのメダリストも使う競技用一流メーカーに、販売・アフターサービスは信頼のおける代理店に任せています。

商品には絶大の自信がありますが、一層の周知・普及が当面の課題です。医療畑の頭だと、病院、リハビリセンターなど売り先を限定しがちですが、野窪さんと話しているところ、まずは市民の目に触れることも大事だと気付かされます。利用場面が広がると、屋外でも適するようになど工夫の余地も出てきます。一人でも多くの人に、再び歩く喜びを味わっていただきたい。まだまだ、やることはたくさんありますね。



株式会社TESS  
代表取締役社長  
鈴木 堅之 さん

## 担当者からひと言



仙台商工会議所(宮城県)  
経営指導員  
野窪 芳郎

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

毎日の相談業務の中でも、鈴木社長の真剣さは断トツでした。まず当所に来てほしかった！お客様を分かりやすく、帰さないよう心掛けています。

ベンチャーはもとより中小企業向けに多くの支援策がありますが、事業者は日々の経営活動の中で、それらを研究する時間はそうそうとれない。その情報を橋渡しするのが私ども。そして、人と人との橋渡しも商工会議所ならではの役目です。地元仙台での「足こぎ車いす」の認知度はまだまだこれからですが、介護福祉関連企業との個別マッチングのほか、商店街での体験試乗や会員相互の交流事業などで、お披露目の機会をあたっています。何としても販売に結び付けたいですね。